

2017年度 青丘社多文化共生推進&ふれあい館連携事業報告

(青丘社評議員会 2018.6.23)

青丘社・ふれあい館が位置する川崎区には、全市の外国人市民40数%が住み、経済的に困難な家庭、多言語情報を必要とする外国につながる多文化家族等、さまざまな「寄り添い支援を必要とするこども&家族」が多く生活しています。ふれあい館では、こうした青少年・若者の実態とニーズを受けとめながら、小学生～中学生～高校生～若者に向けた多様な事業を重点的に行ってきました。

青丘社多文化共生推進事業は、こうした新たな事業を川崎市関係各局と協働事業として予算化し、恒常化することが目標です。また、次世代を担うふれあい館職員がコーディネーターとして、連携をすすめる基盤づくりをすすめています。

(1)子育て支援センター(児童館型) *川崎市こども未来局予算

桜本保育園、ふれあい館事業と連携して、子育て支援センター(児童館型)を実施しました。とりわけ、ふれあい館識字学級等と連携し、外国につながる保護者のこ育て悩み相談や交流の機会を多言語通訳者とともにすすめ、深めてきました。

(2)ふれあい高齢者交流事業・相談事業「トラジの会」育成援助 *川崎市健康福祉局予算

桜本保育園園舎、ふれあい館を使って、高齢者のネットワークを結ぶ交流事業を推進し、健康の増進、体験的共同学習活動を行うとともに、寄せられる相談に寄り添う活動を行いました。トラジの会会員数100名

(3)川崎区こども支援機関通訳翻訳事業(2017年度実績)*川崎区役所地域みまもり支援センター予算

川崎区役所保健福祉センター地域ケア推進担当企画調整と連携し、川崎区の外国につながるこども及び家族の支援を行う機関に、通訳及び翻訳の支援を行いました。「川崎区通訳・翻訳バンク」事業は169件を予算内実施、それを越える324件の依頼について、対処しました。

(4)学習支援・居場所づくり事業

①外国につながるこどもの学習サポート(概ね渡日約3年以内のこども)

*川崎区役所企画課「いきいきかわさき区」事業予算

来日3年以内のこどもたちを対象に、小学生、中学生(含む学齢超過者)の学習支援を実施しました。2017年度から小中学生の学習サポートは「いきいきかわさき区提案事業」として、区役所と共同主催で実施。さらに2018年度川崎市教育委員会寺子屋事業・宮前小学校「外国につながるこどもの分室」として協働事業が始まる予定になりました。

●参加総数 66名 (小学生・中学生:週2回 実施回数:90回×2)

- ・小学生28名 ・駅前教室<教育文化会館>15名 ・桜本教室<教会サポート教室>13名
宮前小、川崎小、田島小、さくら小、藤崎小、四谷小、大島小、
- ・中学生24名(川崎区) 桜本中、川中島中、田島中、臨港中、富士見中、川崎中、京町中
- ・学齢超過者8名(全市:火、木、金10:00~16:30)<教会サポート教室>
- ・高校生6名(小学生・中学生サポートにボランティアとして参加。母語で学習支援をすすめている。)

* 民族ルーツ：中国・フィリピン・ペルー・ブラジル・韓国・ベトナム（6か国）

* 近年、日本国籍ダブルのこどもが急増中。

②川崎市学習支援・居場所づくり事業（内 生活保護世帯以外はふれあい館自主事業）

* 健康福祉局連携事業

こどもの貧困対策事業として、川崎市健康福祉局からの委託事業として、生活保護家庭の中学3年生を事業対象にして2012年度開始。現在は、中1～3までが対象。また、生活保護世帯以外の中学生については、自主事業として取り組んでいます。内、日本生まれや、外国につながるこどもも3割を占めます。

●参加生徒：73名（うち生活保護家庭43名、その他30名）実施回数：90回

- ・週2回 18：30～20：30 * 基礎学力の充実、学習意欲を高める関係づくり、悩み・進路相談
- ・桜本中、臨港中、川中島中、富士見中、渡田中、田島中、京町中、川崎中、南大師中

(5) 高校生・若者プロジェクト

★地域の高校生世代以上の若者が不安定な生活状況に陥り、孤立することのないよう、若者の居場所づくり等の事業を行い、試行をすすめています。

①ぽちっとカフェ ★川崎市教育委員会委託事業

定時制高校は中途退学する生徒が多く、中退後に不安定な生活に陥ってしまう事が多いため、市立川崎高校定時制で「ぽちっとカフェ」という名称で定時制高校生の居場所づくり、学習支援を行ないました。

●参加生徒：のべ2,168名、実数213名（生徒の58.2%が利用） 実施回数：35回（2017年度）

②桜本フェス（高校生、若者たちを中心とした音楽イベント）★ふれあい館自主事業 2017年度・150名

(6) 他機関連携・多文化共生事業

①川崎市国際交流センター&川崎区役所協働事業

★2017年度から他機関との連携に力を注ぎ、全市的な取り組みを目指して、川崎市交流センター、川崎区役所、川崎市総合教育センターと連携した多文化共生事業をすすめてきました。

○川崎区通訳・翻訳ボランティア交流会（年1回）

* 川崎区役所、川崎市交流協会、青丘社共催

○「かわさき外国につながるこどもの教育フォーラム」（年1回）

* 川崎市、川崎市教育委員会、青丘社ふれあい館共催

②神奈川県立高校、NPO法人「多文化共生教育ネットワークかながわ」との連携

○＜2017年度新規事業＞「在県外国人特別募集」県立川崎高校、県立大師高校に、多文化教育コーディネーター派遣&「多文化共生教育ネットワークかながわ」との連携。学校への入り込み支援や、放課後の日本語・教科補習をすすめ、学校教員と共に高校生の進路保障をすすめてきました。

○川崎高校、大師高校評議員会に参画